

地震防災マップとは

大きな地震が発生すると、建物が倒壊したり、家具が倒れて人が下敷きになるなどの被害や道路や電気、水道などのライフラインへの被害や火災も発生します。また、冬季には積雪や寒さで、更に大きな被害が出るおそれがあります。

地震防災マップは、第4次地震被害想定※で想定された「揺れの強さ（震度分布）」、「液状化の危険度」および「家屋全壊率」を図示し、あわせて地震被害に対する事前の備えや災害時の行動などの情報を載せております。

災害時はもとより、日頃の防災対策にご活用ください。

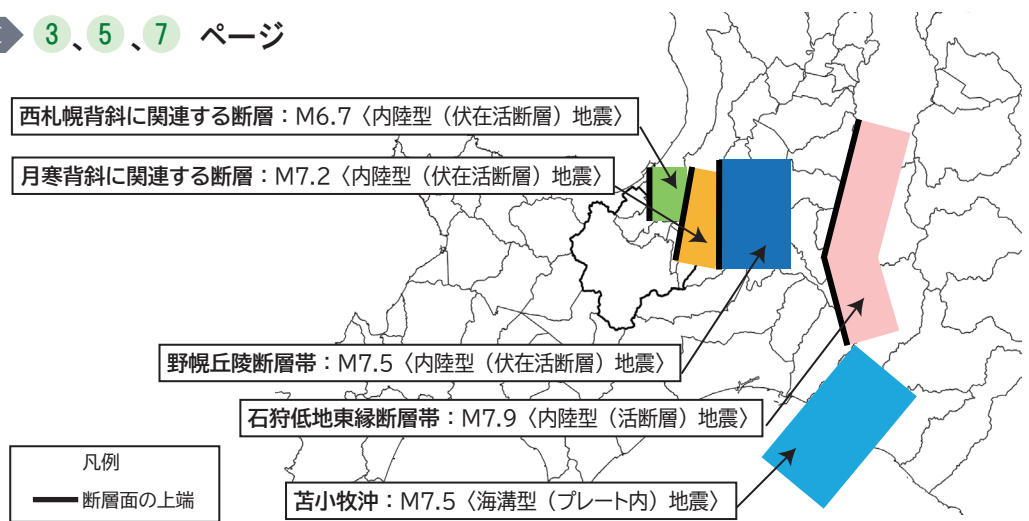
※第4次地震被害想定（令和3年8月）：最新の知見等を基に札幌市に最大級の被害をもたらすと考えられる地震を想定して被害を予測したものです。

各マップについて

震度分布図

→ 3、5、7 ページ

札幌市に大きな影響を与えると想定される地震は5つあります。これらの地震により予想される揺れの強さを重ね合わせ、それぞれの地点で予想される最大の震度を表しています。予想される揺れの強さや避難場所を確認しましょう。



揺れと被害 揺れが強いと、立っていることも困難になります。

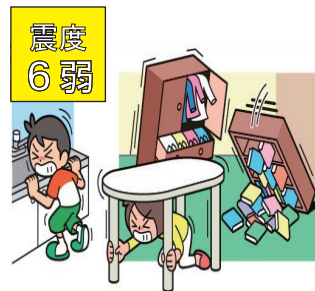
震度は、地震動の強さの程度を表すもので、震度計を用いて観測します。実際にどう揺れるかは、地震の規模（マグニチュード）だけでなく、震源からの距離や地盤条件などに左右されます。



震度 5 弱
大半の人が恐怖を感じ、ものにつかまらなると感じる。



震度 5 強
物につかまらなると歩くことが難しい。



震度 6 弱
立っていることが困難になる。



震度 6 強 震度 7
はわないと動くことができない。飛ばされることもある。

気象庁：「気象庁震度階級関連解説表」を加工して作成 <https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/shindo/index.html>

液状化危険度図

→ 4、6、8 ページ

液状化の起こりやすさを4段階で表しています。地震が起きたときに、液状化が起きやすい地域を事前に確認しましょう。

家屋全壊率図

→ 3、5、7 ページ

地域ごとの地震によって建物がどの程度倒壊するか、その程度を5段階で表しています。建物が倒壊しやすい地域を事前に確認しましょう。